

令和6年度 学校評価 報告書

報告日
令和7年3月14日

幼稚園名	芦屋市立小槌幼稚園
園長名	池田 睦美

1 今年度の重点目標

- 心豊かに感じ、共に育ち合う幼児を育むための教育の推進
- 一人一人に寄り添った教育の推進
- 幼稚園や地域の特性を生かした子育て支援の実施

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・教育評価に関する保護者アンケートを実施、集約し、保護者に周知した。
- ・重点目標に対しての取り組みは適切になされている。

3 学校自己評価結果

(A:十分達成している B:達成している C:概ね達成している D:達成していない)

No.	分野	重点	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策	4 評価項目に係る学校関係者評価 学校自己評価結果及び改善方策についての評価
1	教育過程	1・2	<p>・園の教育目標である「心も体もたくましい幼児の育成」に向けて、同志社大学の先生を講師にお招きし、運動遊びを通して、一人一人の成長やクラスの成長を育めるように、1年間継続し(年間9回)、運動遊び(巧技台、鬼ごっこ)に取り組んだ。巧技台では、一人一人の運動能力が育まれたことを実感した。鬼ごっこでは、ルールを友達と話し合いながら、意欲的に取り組み、自分たちで目的に向かって共に遊ぶ楽しさを味わう姿が見られた。</p> <p>・一人一人のよさを受け止め、内面や発達段階を理解し、保育が創造できるように、園内研究会や公開園内研究会を通して、協議をしたり講師の先生から指導助言をいただいたりし、幼児の育ちにつながるように努めてきた。</p>	B	<p>・今後も、一人一人の幼児の内面理解を様々な角度から捉えていくように努め、共に育ち合う幼児の育成につながるような環境作りや教師の援助を探り、年間を通して継続して研究を深めていく。</p> <p>・園内研究会を通して、講師の先生より発達段階に応じた援助や支援を学び、教師の資質を高めることで、幼児の育ちにつながるように努めていく。</p>	<p>・「教育評価アンケート」では、園の教育方針や教育活動を様々な手段を通して保護者に分かりやすく伝えており、子どもの成長段階に合わせて、意図的、計画的に豊かな体験が多くもっているように教育が進められている評価を得ており、保護者の園への高い信頼が伺える。</p> <p>・他の項目に比べ「食への興味・関心」についての評価が気になる。今後も畑で野菜を育て収穫を喜び、みんなで食べたり家庭に持って帰り家族と食べたりする経験をするなど、食への興味や関心が高まるように工夫をしていってほしい。</p>
2	子育て支援	3	<p>・毎日のブログや園だより、写真の掲示などを通して、幼稚園教育内容の発信に努めた。</p> <p>・参観日の後の保護者会では、子どもの姿から感じたことや褒めるポイントなどを「心わくわくシート」を用いて、意見交流をする場を設けた。自分の子どもだけでなく、クラスの子の成長や育ちつつある姿を互いに共有できる場として年間を通して行った。</p> <p>・木育活動、絵本の読み聞かせ、英語、サッカー教室等、園の行事を園庭開放や子育てサークル、子育てひろばと重ねた。未就園児が在園児と関わって遊ぶことを通して、園を身近に感じ一緒に遊びを楽しめるように工夫した。</p>	B	<p>・幼稚園教育を分かりやすく発信する工夫をすることで、幼児期の教育の大切さを感じ園と家庭とが連携がとれるように努めていく。</p> <p>・今後も地域の未就園児とその保護者が幼稚園を身近に感じ、親しみがもてると共に、子育ての楽しさを共有できるように、園の行事と重ねる等、発信をしていく。</p>	<p>・地域に開かれた幼稚園として、他の就学前施設と連携したり未就園児も園の行事に参加できたりするような保育を行い、カリキュラムを工夫している。今後も特色ある園づくりを続けてほしい。</p>

5 総合的な学校関係者評価

・保護者の教育評価は具体的に丁寧を実施されており、園における教育活動の取り組みは良好である。今後も、家庭や地域、学校等との連携を大切に、園の特徴を活かしながら、教育活動や内容を考え、工夫していくことを期待する。